

学生担当者報4

発行 / 天理教学生担当委員会

発行責任者 / 清水慶政

編集責任者 / 中山祥吉

TEL 直通:0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp 立教 186 年
2023 年
TSA Website <https://tsa.tenrikyo.or.jp> Happist <https://happist.net> 3 月 25 日発行

私が印象に残っているのは、WBC開幕前に行われた日本代表の調整試合。対戦相手である日本プロ野球チームのベンチは大谷翔平選手に首ったけ。ベンチは彼のプレーに野球少年のまなざしを向けていました。その表情はキラツカに輝いていて、人は人に魅了されるものだと、改めて感じました。

所変わつて、おぢばでは、学生徒修養会大学の部と高校卒業生

（ワールド・ベースボール・クラシック）が開幕、日本代表のみならず、世界中の野球選手が躍動し、私たちに感動を与えてくれました。私の長男も一昨年から野球を始め、WBCに首つたけ。野球に疎い妻ですら、息子に野球のルールを教えてもらひながら楽しんでいました。

を与えてはいることでしょう。加えて「春の学生おぢばがえり」を控え、3月28日の式典にたくさんの中学生徒が中庭を埋め尽くす光景を願つて止みません。

さて、4月25日には「令和5年度高校生の集いまなびば」の教区学生担当者に向けた研修会が行われます。学生担当委員会では、高校生の感性にフィットするプログラムを企画、作成し、信仰の喜びを味わえる一つの手段として、ま

生コースが開催され、多くの学生
生徒がおぢばがえりをしました。
高校卒業生コースに至つては4年
ぶりの開催となり、育成現場のス
タッフは力が入りました。

「首つたけ！？」

人材育成部 委員

委員

学生担当者報

各地の動き						
教区学生層育成者講習会						
・滋賀	2月2日	教務支庁	西田昭芳委員出向	大分	2月3日	教務支庁
・京都	2月11日	教務支庁	勝村宏樹副委員長出向	京都	2月11日	教務支庁
・鳥取	2月28日	教務支庁	中山祥吉副委員長出向	鳥取	2月28日	教務支庁
・直属学生層育成者講習会	清水慶政委員長出向	40名	19名	・大分	2月3日	教務支庁
・川之江	2月10日	大教会	130名	・京都	2月11日	教務支庁
・網走	2月12日	大教会	60名	・鳥取	2月28日	教務支庁
・松阪	2月20日	大教会	90名	・直属学生層育成者講習会	清水慶政委員長出向	40名
・笠岡	2月21日	大教会	中山祥吉副委員長出向	・滋賀	2月2日	教務支庁

人
事

〔直属学生担当委員長辞令交付〕
立教 186 年 2 月 25 日付

・ 双名島	清水慶政委員長出向	2月 22 日	大教会	東井申雄委員出向	60 名	129 名
・ 越乃國	松森芳夫委員出向	2月 23 日	大教会			
・ 生野	幸田真生委員出向	2月 23 日	大教会			
・ 中和	秋岡教美委員出向	2月 24 日	大教会			
・ 東神田	東井申雄委員出向	2月 24 日	大教会	100 名	130 名	100 名
【直属学生担当委員長辞令交付】				69 名		
・ 長嶋喜一（嶽東・伊豆中央）						
・ 橋本善弘（蒲生・磯部）						
・ 岸本成人（豊岡・鳥取）						
・ 實延利郎（南阿・備護）						
・ 安村 洋（中背・何鹿）						

各地の動き

清水慶政委員長出向

業務記録

立教
186
年2月16日-3月15日

学修部部会	人材育成部部会	学生連絡会	14日	学生生徒修養会 高校の部研究室 春の学生おぢばがえり	プロジェクトチーム会議
-------	---------	-------	-----	-------------------------------	-------------

10日	学生生徒修養会 高校卒業生コース	直前研修
9日	学生生徒修養会 高校卒業生コース	（～8日）
5日	広報室会議	（～3日）
4日	学生生徒修養会 大学の部	（～8日）

令和5年 学生担当委員会 活動方針 「教祖を慕い、ひなた」

班のメンバーの今までの天理教に対する思いを知り、今までの人生を話し合えて良かった。また自分自身をふり返るいい機会になりました。

人生を話す機会で、普段は語らないようなテーマで語り合えて、同世代だからこそ響くことがあってとてもいい時間を過ごせました。これから天理教に不安があつたけど仲間と出会えた気がして心強くなりました。

「おつとめを身近に」というテーマで行われたこの学修で、おつとめがなぜ大切なのかということやおつとめに際してどのような心構えでいるべきかということを学ぶことができた。教会に生まれ、物心ついた頃からおつとめに触れていると、何のためにおつとめをするのか分からなくなることもあつたが、学修でさまざまな先生の講話を聞かせていただき、これからのおつとめに際しての気持ちが強まつた。

○4年生男子
おつとめを大切にしていきたいです。今までおつとめはしていましたが、無

学生生徒修養会 大学の部 受講生アンケート

班のメンバーの今までの天理教に対する思いを知り、今までの人生を話す機会で、普段は語らないようなテーマで語り合えて、同世代だからこそ響くことがあってとてもいい時間を過ごせました。これから天理教に不安があつたけど仲間と出会えた気がして心強くなりました。

一人一人と喋つて見た目じや分からぬ一面を知れてすごく樂しかりました。

学生生徒修養会 高校卒業生コース 受講生アンケート

かつたです。

班の中でも色々な意見を学べて、天理教が完全に好きになるきっかけになつた。

自分のことを話したり、同年代の班員の話を聞いたりすることはなかなか機会がないので、いい経験ができたと思いました。

班の子の天理教に対する考え方を知ることができて新しい考え方を取り入れ、たくさん感動させていただいた。

私はまた学修と学生を通して大きなものを教えていただきました。このご恩を返すためにもご用をいただける限り、精一杯勤めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

人材育成部本部スタッフ 小見山 健

私の信仰の元一日は大学生の時に受講した学修の選択講話を聞いた時でした。また、お道から外れそうな私を引き戻してくれたのもスタッフとして呼んでいただいたい学修大学の部でした。なので私にとって学修はとても思い入れのある行事になつています。先日あつた学修大学の部でもスタッフとしてご用をさせていただきました。テーマは「おつとめを身近に」でした。自分はおつとめは大切なものであり身近というイメージが無かつたので、2月の間は勉強と、何かあればおつとめをさせてもらいました。そしてやつてきた学修の直前研修。おつとめは身近どころかどこかへ行つてしまつてしました。そして気が付けばおつとめは見えぬまま学修が始まりました。しかし学修が始まり、おつとめについて学生と学び練り合う内に身近に感じられるようになつてきました。そして迎えたおつとめまなび。学生と共に勤めたまなびはとても光り輝き陽気にあふれた世界となりました。その時からおつとめが身近なものとなり、ふり返りではみんなが身近に感じる事ができるようになりました。

私はまた学修と学生を通して大きなものを教えていただきました。このご恩を返すためにもご用をいただける限り、精一杯勤めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

の心になつていていたり、早く終わらな
いかなという気持ちになりながら、
取り組んでいました。現在、世界では色々な身上や事情で苦しんでいる
人がいる中、こんな考えでおつとめ
している自分が情けないと思い、こ
れからは苦しんでいる人たちのこと
を想い、素直な心で精一杯おつとめ
に取り組んでいきます。

○3年生女子
おつとめの大切さ、おつとめの心
構えを学んだ。失つても、苦しんで
もきっと良いことが待つていて。いろ
んな人に多くの人に学修に参加して
ほしいと思えるほどすてきな行事だと
分かりました。

○1年生女子
高校の時以上に学べたことが多く、
おつとめや天理教について詳しく知
れてよかったです。そして、班の人
たちともつながりを深められて本当に
楽しかつたです。

○1年生女子
おつとめの意味とか今まで真剣に
考えたことがなかつたことを、改めて
考えることができたし、色々な視
点や価値観を知ることができて、良
い経験になつた。

○1年生女子
親神様、教祖に感謝することの大
切さ、神様の偉大さに改めて気付か
せてもらつた。何事も当たり前では
なく神様のご守護のおかげであるか
ら神様に感謝をして、それを姿にう
つし、お礼していくらしいなと思つ
た。

初日は、『開講式』にて吉川万寿彦本部員より挨拶を頂き、また学生担当委員会・清水委員長が挨拶に立った。その後、受講生はグループタイムを通して、お互いのことを知り合う時間を過ごした。2日目には、自分自身の過去を振り返り、多くの人に支えられてきたことに気付くことをねらいとしたグループタイムを行った上で、仙臺大教會長・加藤元一郎先生より「親神様の御守護」と題した講話を頂戴した。その後『ふりかえり』の時間では、それぞれが感じる親神様のご守護について語り合った。午後からの『組別行事』では、

深めることを目的に企画された。

3月10日から12日にかけて、4年ぶり5回目となる「学生生徒修養会 高校卒業生コース」を開催。コロナ禍の影響が残る中にも関わらず、受講生302名（スタッフ212名）が参加した。本コースは、進学や就職などそれぞれの道へと進む大切な時期に、親神様のみ教えを学ぶ中で、親神様、教祖はもとより、親やこれまで自分を支えてくださった方々への感謝の気持ちに気付いてもらうとともに、同世代の道の仲間とのつながりを深めることを目的に企画された。

学生生徒修養会 高校卒業生コース 開催報告

お楽しみ要素を盛り込んだプログラムを行い、和やかな雰囲気の中で、班員以外の仲間とも親睦を深めた。『班タイム』では、神殿や神苑のひのきしんを行う班、記念建物を見学する班、市中の清掃ひのきしんを行う班、学生たちにとって切実なテーマであるお互いの“恋バナ”を行う班など、班ごとに主体的に計画した活動に取り組み、有意義な時間を過ごした。夜には、ランタンの淡い光の中で『班内感話』を行い、自分の信仰や夢について真剣に語り合った。最終日には、主任より「明日の君たちへ」と題した講話を聴いた後、ふり返りを行うとともに、この3日間で学んだことを再確認した。そして、み教えを基にこれから先の人生を生きる上での決意を記し、封筒に入れて持ち帰った。それぞれが新生活をスタートする時に開封し、学修で学んだこと気付いたことを今一度思い起こして、今後の日々に生かしてもらうことねらいとするものである。

最終日。『閉講式』において、表統領・中田善亮先生より代表者に修了証書が授与され、ご挨拶を頂いた。その後、2泊3日の、短いながらも内容の濃い高校卒業生コースは幕を閉じた。

○男子カウンセラー感想文

私は今回初めて学生生徒修養会大学の部にカウンセラーとして参加させていただきました。ペアのカウンセラーや、頼りになる塾スタッフたちのお陰で、担当した学生さんたちに喜びと感動を持ち帰つていただくことができ、また学生たちを通して私自身も多くのことを感じました。

特に印象に残つたのは4日目の夜に行つたG T⑧の時間です。その時間は班ごとにカウンセラーが内容を考え、学生たちの信仰を深める時間でした。前日の夜、相方と話し合い、この学修をただ楽しかったという記憶だけでは無く、悩みを共有できる仲間作りをして欲しいと思いました。そのため、私たちはまず1分間スピーチで話しやすい雰囲気作りをし、学生だけで信仰の悩みを話し合う時間としま

私は今期から本部スタッフとしての役割もいたいたので教祖百四十年祭に向けて親神様、教祖にお喜びいただけるよう精一杯努めさせていただきます。

私は今期から本部スタッフとしての役割もいたいたので教祖百四十年祭に向けて親神様、教祖にお喜びいただけるよう精一杯努めさせていたしました。

最初は初めてのカウンセラーで緊張しましたが、学生たちが楽しむ姿、また真剣にプログラムに向き合う姿を見て、このご用は本当に尊く大切なものだと改めて思いました。



QRコード読み取り

明日につながる 学生WEBSITE Happist

<https://happist.net>

- お道の教えや心にグッとくるお話をご紹介
- おちばの行事情報や各地の学生会情報も充実
- 「Happistスマイル」では学生の笑顔をお届け

学生に手渡しできるリーフレット
HAPPIST [NOT] NET

毎月25日発刊。例会資料としてお配りしています。
部数のご変更は学生担当委員会事務局まで。